

図書館だより

vol.32 No.3

北海学園大学附属図書館報 第32巻3号(通巻195号) 2010.10.25

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library



- 2 森永泰史
経営学者はこんな研究生生活をしています
- 3 大石和久 大貝健二
私が薦めるこの1冊
- 4 レファレンス・カウンター
フル活用術
- 6 イチオシ！
データベース紹介
- 7 第53回図書展示会
北海学園大学図書館だより展
- 8 アルバイトーク
図書館からのお知らせ
編集後記



経営学者はこんな 研究生活をしています

文＝森 永 泰 史

(もりなが やすふみ／経営学部准教授)

いきなり宣伝するようで恐縮ですが、今年の7月に、初めての著書を出版しました。タイトルは『デザイン重視の製品開発マネジメント』といいます。修士論文の執筆以来、約10年かけて、ようやく出版にこぎつけました。しかし、ここでは本の内容を紹介するつもりはありません。ここでは、本の内容には全く触れず、執筆過程の10年間に体験した幾つかのエピソードをお話し、研究生活の断片を紹介してみたいと思います。

私は、トヨタや日産などの自動車メーカーを研究のフィールドとしています。しかし、もともと自動車が好きだったわけではありません。それどころか、全く関心がありませんでした。そのため、いざ研究を始めるといっても、そもそもこのメーカーから、どのような車が発売されているのかさえ分からず、研究に着手するところではありませんでした。そこで、私は、まず某自動車雑誌の出版社に電話をかけ、バックナンバーを20年分コピーさせて欲しいと(かなり無茶な)お願いをしました。相手方は当初、戸惑っていましたが、なんとか了承をもらい、お邪魔させてもらうことになりました。

そして、訪問日は、丸1日をかけてコピーに従事しました。しかし、途中でコピー機のトナーを切らして、怒られただけでなく、膨大な資料をコピーした結果、コピー代金が3万円にもなりました。さらに、コピーした紙が重過ぎて、それらを入れた登山用のリュックを担げないなど、ハプニングの連続でした(半泣き状態です)。それでも、なんとか無事の下宿まで資料を持ち帰り、夏休みの1ヵ月をかけて、それらを読破しました。その結果、自動車メーカーに関して、かなりの知識を得ることが出来ました。

そうして知識が身についたので、次に、実際に自動車メーカーに行って、インタビューさせてもらおうと考えました。まず、M自動車にお願いのメールを出したとこ

ろ、快く引き受けてくれました。そこで、勢いに乗って、次々と他の自動車メーカーにも同様のメールを送ったり、電話したりしてみました。しかし、ことごとく断られました。後でわかったことですが、M自動車のような対応は例外で、当時の部長さんがたまたまオープンな方だったため、受け入れて頂いただけのようです。そのため、またしても研究が頓挫しました。困った私は、企業に受け入れてもらうための様々な手段を考え、実行に移しました。そして、その結果、幸運にもN自動車やT自動車からも調査の許可を頂きました。どうやったかって? 企業秘密ですので、お話しできません(笑)。まあ、いろいろ苦労したということです。

そして、いざインタビュー調査のために、企業を訪問した時のことです。研究テーマの性格上、私が訪問するのは、警備が徹重な製品開発センターになります。ボディチェックや、何重のゲートチェックを受けなければ、建物内に入ることが出来ません。まず、その雰囲気圧に圧倒され、緊張でガチガチになりました。そして、案の定、最初のインタビューでは上手く言葉が出てこず、大失敗しました。凹みました。帰りの新幹線の中で、「自分はこの職業をやっているのか」、「向いてないのではないのか」と何度も自問自答して、泣きそうになったのを覚えています。ただ、その後も懲りることなく、企業を訪れて、インタビューの回数を重ねているうちに、だんだんと慣れしてきました。やはり経験を積むことは重要です。

と、このように、今回は出版を契機に、過去10年間の体験を断片的に振り返ってみました。研究者の生活を少しでもご理解いただければ、幸いです。もちろん、経営学者が全員このような(恥ずかしい)エピソードを持っているわけではないと思いますが……(笑)。

私が薦める
この1冊

山田 宏一・蓮實 重彦訳

『定本 映画術：ヒッチコック・トリュフォー』（晶文社、1990年）

文＝大石和久

（おおいし かずひさ／人文学部教授）

それはおよそ20年前、レンタルのお店にはDVDではなく、VHSのビデオテープしか置いてなかったころの話。

当時、まだ大学生だった私は足繁くビデオレンタルのお店に通い、アルフレッド・ヒッチコックの映画を借り出し、鑑賞するのを楽しみにしていました。ご存じのようにヒッチコックはスリラーを得意とした有名な映画監督。私は特に眠れない夜、ビデオレンタルまで出かけてゆきました。ヒッチコックを深夜一人で観るのです。私はそこに孤独な快感を感じていたのですが、ビデオを観た後、必ず読む本がありました。それが『定本 映画術：ヒッチコック・トリュフォー』です。これはフランスの映画監督フランソワ・トリュフォーが自らの敬愛する映画作家ヒッチコックと対談したものを載録した本です。ヒッチコックの映画一本一本をめぐる彼らの真剣な

語らい。そのような対談を通して、私は今観たばかりのヒッチコック映画を自分の中で反芻し、あるいはビデオで実際に見直したりするのです。さきほど「孤独な快感」と申しました。が、私は本を通して彼らの対談に聞き入っていたのですから、一人きりの夜は案外、賑やかだったのかもしれません。私にとってヒッチコック＝トリュフォーは素晴らしい映画の先生でした。彼らの対談に出て来る、まばゆいばかりの映画的概念に心打たれました。映画におけるゼロ記号とも言うべき「マクガフィン」、混同しがちな「サスペンス」と「サプライズ」の違い等々……。特異なヒッチコック映画についての対談が普遍的に映画なるものを照らし出すにまで至っています。

興味のある方は是非ともご一読を。

私が薦める
この1冊

藤沢周平著

『漆の実のみのる国（上・下）』（文藝春秋、2000年）

文＝大貝健二

（おおがい けんじ／経済学部講師）

藤沢周平という作家についてご存じだろうか。「たそがれ清兵衛」、「蟬しぐれ」、「武士の一分」、「山桜」、「花のあと」、「必死剣鳥刺し」といった映画のタイトルをあげるとわかるかもしれない。とりわけ、「武士の一分」はSMAPの木村拓哉が主演したことで、かなり話題になった作品でもある。これらの作品を世に出した人物こそ、藤沢周平である。

さて、本作品のごく簡単なあらすじを紹介しておきたい。この話の舞台は、江戸時代中期の米沢藩（現在の山形県南東部）である。過剰な人件費に加え、鈍才な藩主による無策が、藩財政の悪化に拍車をかける。貧窮にあえぐ藩財政を立て直すべく登場したのが上杉鷹山（治憲）という人物で、一汁一菜を用い、木綿を着て俵

約に励み、また商品作物の栽培を行うことによって藩財政の改革に心血を注ぐも、簡単には進まない。政治や経済には常に利害が絡み、紆余曲折がつきまとうことを巧みに表現している作品である。

ところで、藤沢周平は1997年にその生涯を閉じており、本作品は、彼の絶筆となった作品である。武家もの、市井ものが多くを占める藤沢作品の中で、歴史上の人物を描いた作品は、実は多くはない。やがて「失われた10年」と表現される1990年代に、時代は異なっても、敢えて政治や経済の問題と真正面から向かい合った意図は何か。本来あるべき「経世済民」とはどういうことなのかを考えるにはいい1冊であると思う。

本が
ない!!

そんなあなたの悩み解消します。

レファレンス・カウンター フル活用術

レファレンスとは、調査や研究の資料探しをサポートするサービスのことです。具体的には、OPACをはじめとした図書館の利用方法全般を説明したり、参考図書やオンラインデータベースを使って関連情報を調査、あるいは他の図書館・研究機関等との相互協力により、本学図書館に所蔵していない資料を提供したりと、様々なサービスを行っています。

こんなときに便利!!

必要な文献の
探し方が
分からない。

ある資料の参考文献欄に、小林敬孝「原価管理とVE」『會計』第137巻、第3号、62～64ページと記載されていましたが、どうやったら手に入りますか？



ほしい資料が
OPACで
見つからない。

OPACで検索してヒット数が0件だったら諦めるしかないのでしょうか？



他の図書館が
所蔵している資料を
見てみたい。

「Webcat Plus」というデータベースで検索したら、本学図書館にはないが、他大学の図書館にあることが分かりました。入手できますか？



本学図書館にない資料の入手方法

文献複写

他の図書館・機関等から必要箇所のコピーを取り寄せることができる(コピー代、送料等は申込者負担)。

相互貸借

他の図書館・機関等が所蔵する図書を借り受けることができる(往復分の送料等は申込者負担)。

紹介状発行

本学の図書館が発行する紹介状(他館利用願)を持参することにより、他の図書館を利用できる。

なお、**大学図書館相互利用サービス**参加館を利用するには紹介状は不要(学生証、もしくは教職員身分証を持参)。

※「大学図書館相互利用サービス」の詳細は、図書館ホームページの「利用案内」、もしくは館内ポスターにてご確認ください。

レファレンス申込書

[illegible]

レファレンス・サービスの利用を希望される方は、
レファレンス・カウンターまたはサービス・カウンターで
「レファレンス申込書」を受け取り、
太枠内を記入して提出してください。

オスナ



文献検索ツール（全て図書館ホームページより接続できます）

図書・雑誌の検索

● Webcat Plus

全国の大学図書館等が所蔵している
図書・雑誌を検索できる。(収録件数1億件以上)

● 国立国会図書館 (NDL-OPAC)

国立国会図書館が所蔵する図書・雑誌を検索できる。



雑誌論文・記事の検索

全国の大学図書館等が所蔵する
雑誌や大学紀要などの記事・論文を検索できる。

MAGAZINEPLUS

一般誌から専門誌・大学紀要、海外誌紙まで
幅広く検索できる。





データベース紹介



日経BP記事検索サービス

今年3回目のデータベース紹介となりますが、みなさん、一度は図書館のHPからデータベースを見ていただけたでしょうか。

今回はさまざまな分野で活用できる日経BP記事検索サービスをご紹介します。

このデータベースは日経BP社が発行している、「日経ビジネス」、「日経コンピュータ」などの雑誌記事の検索はもちろん、「注目人気記事ランキング」で現在のトレンドを知ることができたり、「業界動向ウォッチ」で、最新のビジネス情報を知ることができ、就職活動の企業分析に役立ちます。

その他にも、パソコンの操作方法や技術向上できる「パソコンスキルアップ講座」があり、日常のエクセル作業やワード作業などに困ったときなどにも非常に便利です、こちらを使えば実社会でのPCスキルを習得できます。

ここにキーワードを入力して検索

トップページ

図書館では、オンラインデータベースの使い方を説明する講習会を行っております。

詳しくは図書館ホームページ、館内掲示物等をご覧ください。

第53回図書展示会

北海学園大学

図書館だより展

みなさんは「図書館だより」を読んだことがありますか？

図書館だよりは「図書館案内」～「図書館ニュース」を経て
1979年に第1巻1号が発行されました。

現在までの31年間で計127冊発行されています。

その図書館だよりが、

10/1より図書館ホームページで
第1巻1号から最新号まで閲覧が可能になりました。

それを記念して、過去に発行された現物を

皆さんに実際見れる機会をと思い企画しました！

先生の体験談やお薦めの一冊、職員のコメントが
盛りだくさんです！

ここに残るイイ話ばかりです！

読んだことのない人は一度読んでみてください！！

展示期間

2010年10月1日～2011年3月31日

展示場所

図書館 1階自由閲覧室



みなさん、図書館を利用して いますか？

文＝塩濱健児

(しおはま けんじ)
文学研究科 日本文化専攻

わたしは学部生の頃、サークルに入っていなかったの
で、講義の合い間や講義が終わってからの時間はバイト
をするか友人と遊ぶほかはもっぱら図書館に入り浸って
いました。図書館は講義でわからなかったことを調べた
り、興味を持ったことに関する本を読んでみたり、レポ
ートの資料を探したりするのにうってつけの場所です。
信憑性が高い情報を得たり、より深く知ろうとするな
ら、何でも鵜呑みにしてはいけませんが、やはり本から
情報を得るのが一番です。もう既に絶版になっていて入
手困難な本や、また自分で購入するには高いと思う本
も図書館では入手することができます。そもそも置いて
いない本については購入希望の申請もできます。PCブ
ースでは、新聞・文献の検索やインターネットの利用が

可能です(ワードやエクセルは使用できません)。

図書館は一人の時間を過ごすには最適の場所です。勉
強をするのはもちろんのこと、講義の合い間の息抜きに
雑誌を読んで暇つぶしをしたり、少し時間があるときに
DVDを鑑賞してみてもいいと思います。友達と一緒に勉
強するのもいいと思います。ただ、他の利用者の方の迷
惑になるのでおしゃべりだけはご遠慮ください。

普段から利用している人も、定期試験前だけ利用する
人も、全く図書館を利用したことがない人も、もっと図
書館に足を運んで、どんどん活用してみてください。わ
からないことがあればお気軽にカウンターまでお越しき
ださい。みなさんのご利用をお待ちしています。

図書館からの お知らせ

9月15日から図書館の蔵書検索機OPACがリニューアルしました。
今までに無かった機能も多数搭載しています。
開発研究所に所蔵している図書や雑誌も一緒に検索できるようになりました。
今後は、学内ポータルG-PLUSとの連携も予定しております。
是非、図書館に来て検索してみてください！

編集後記

「秋の日は釣瓶落とし」なんて言葉がありますが、秋の夜
長には読書が一番。図書館には本がたくさんあり、私のおす
めはズバリ……、といった調子でこの編集後記を書き上げ
ようと考えましたが、思いがけず重大なことに気がつきました。
そうです、私たちは本の紹介はしても雑誌の紹介はあま
りしていなかったのです。

さて、図書館には雑誌もたくさんあります。専門誌はもち
ろんですが、『Cut』『モノマガジン』『non-no』『poroco』と

いった一般誌も多く取り揃えています。最近のおすめは、ズ
バリ『旅』(新潮社)の2010年11月号でしょう。巷で大人気
の「パワースポット」(近頃は定義がよく分かりませんが)
の親玉と言っても過言ではない『伊勢神宮』と『出雲大社』の
特集号です。八百万の神々が出雲に集う十月(旧暦ですが)発
行の『図書館だより』今号には、さほどのご利益もないかと思
いますが、せめてこの特集号を通して、ご当地パワーを感じ
ていただければ光栄に思います。